

別紙3(第7条関係)

会議結果のお知らせ

令和5年度第2回宮古市地域経済活性化連携会議を、次のとおり開催しました。

令和6年1月10日

宮古市地域経済活性化連携会議

- 1 開催日時
令和5年11月21日(火)午前10時00分から午前11時50分まで
- 2 開催場所
宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール
- 3 議題
(1) 宮古市産業立市ビジョン実行計画の取組状況について
(2) 地域経済の動向について
(3) その他
- 4 会議の概要
松田淳議長から挨拶、その後、議題について説明のうえ、意見交換をした。
詳細は、別添議事録のとおり。
- 5 問い合わせ先
宮古市産業振興部産業支援センター
電話0193-62-2111(代表) 内線2611 0193-68-9092(直通)

令和5年度第2回宮古市地域経済活性化連携会議 議事録

1. 日 時 令和5年11月21日(火)
午前10時00分から午前11時50分まで
2. 場 所 市民交流センター 2階 多目的ホール
3. 出席委員 13名
松田淳、植野歩未、中居克広、寺井繁、佐藤功、岩田智、
渡部玲子、石原和幸、早川輝、菊地丙午、藤田ルリ子、
小西英理子、盛岩幸恵
4. 事務局等出席者 8名
産業振興部長 岩間 健
産業振興部次長
兼企業立地港湾課長 小成 勝則
産業支援センター所長 飛澤 寛一
産業支援係長 皆野川 徹
商業労政係長 工藤 翠
観光課長 山崎 義剛
農林課農政係長 中村 和春
水産課長 田代 英輝
5. 傍 聴 者 なし
6. 議 題 (1) 宮古市産業立市ビジョン実行計画の取組状況について
(2) 地域経済の動向について
(3) その他

7. 議事録(要旨)

(1) 宮古市産業立市ビジョン実行計画の取組状況について

主な意見及び質疑事項

産業立市ビジョン実行計画の重点施策(リーディングプロジェクト)の項目ごとに質問・意見、情報提供を募った。

①「うみだす」

質問・意見なし

②「うりこむ」

意見・質疑

(委員)

宮古創生ふるさと納税パワーアッププロジェクトについて、R5納税額584,407,807円(46,376件)というのは岩手県ではどのくらいの水準であるか。

回答

(事務局)

今年度の実績は出ていないが、昨年度は岩手県内では3番目であった。今年度も金額的にはあまり変わらず推移しており、昨年度以上の順位を目指している。

返礼品の人気商品である「牛タン」が実績を上げている状況である。

意見・質疑

(委員)

外国客船受入れは今後どのように継続するのか。

回答

(事務局)

客船来航の計画は宮古市ではなく客船会社が行う。詳細は、お伝え出来ないが、来年も今年度より多少多めの客船の寄港が予定されている。

意見・質疑

(委員)

今年度は10月のにっぽん丸の寄港が最後か。

回答

(事務局)

にっぽん丸で最後であり、次は来春の寄港となる。

意見・質疑

(委員)

体験型事業について、シーカヤックなどは、予約を取り体験を行うと思うが、いちご農家や水産業事業者などの「本業」がありながら、イベント的な形で受け入れを行っている事業もある。本物の仕事に触れられるというのはよいことだと思う。そういう意味では、常に体験型事業を受け入れられる、ガイド、コーディネーターがいる必要があると思う。

回答

(事務局)

それが課題であることを認識している。以前、宮古市内の観光体験提供者に聞きとりをしたところ、体験提供者にもさまざまな方がおり、社会貢献的に子供に体験を提供し、売上を上げる意図はない方や、自分の事業を行いながら、企業PRや体験者へのネット販売の宣伝を行いたい方、シーカヤックや人力車のようにそれを生業としている方等がいる。当日、飛び込みで体験するにしても、やはり事前に準備をしなければいけない。また、キャパシティが決まっているので、受入にも制限がある。

学ぶ防災や遊覧船などの第三セクターによるガイドは、恒常的に事業が行えていると思う。その他の業者の、本業と体験受け入れのバランスは各社によって違う。その中で、観光客とすれば、エージェントに紹介されたから、都合をつけて体験事業について対応してくださいという思いはあるが、簡単には成立しないのが現状。そういうことに対応していきながら、当日の飛び込み参加も対応していくことを、体験事業者と話をしながら、観光課、観光協会がアピールをし、皆さんに知っていただければと思う。

情報提供

(委員)

宮古の12月からの真鱈グルメフェアについて、今年度は参加店舗を2倍以上の54店舗に増やした。盛岡・内陸地域の参加店舗を増やした。

意見・質疑

(委員)

今年も多く外国クルーズ船が来たが、市外を回るオプションツアーが多く、市内での観光客が少ない印象である。PR等に係った宮古市の予算額がいくらかくらい掛かっているのか、市内のお店の経済効果が出ていれば良いと思うがいかがか、市内のみを回るプランを作ってはどうか。

回答

(事務局)

今月末に、通年でのクルーズ船歓迎の振返りの会議を行う。市内消費額についても現在並行して確認を行っている。船によって料金体系が異なり、当日でなければ、遠出のオプションツアーに参加をするかどうかの把握が難しい。但し、市内への経済効果という点で、市内への誘導を心がけている。不足している点については、関係者とのディスカッションで改善策を見つけていきたい。事務局が申したように、体験型の観光については、ガイドが付くとか、各スポットで説明員が付くなど様々な仕掛けが考えられるが、それをボランティアとして行うのか有料で行うのかは検討していきたい。

コロナウイルス感染症の影響もあったため、これほど多くの客船が寄港するのは今年が元年度であると思う。今後経験を重ね、問題点を解決しながら、なおかつ地域経済への波及効果等を考えながら、より効果的な仕掛けができるよう、今後皆様にも協力をお願いしたい。

情報提供

(事務局)

観光協会の取組を紹介する。客船の種類、定員などの情報をLINEにて、事前に観光協会から市内のお店に流すという取り組みをしている。客船が寄港する時間に開店してくれることを期待している。すべてが旅行パックになっていて、ツアーに参加してもオプション費用がかからない場合では、ツアーバスで市外に行くパターンが多い等、客船によって、乗船客の動きが全く異なることを実感した。但し、その客の動きに合わせて、開店して下さる店舗もあるので、今後も事前の情報発信を行っていきたい。

意見・質疑

(委員)

乗客には事前に市内の情報は伝わっているのか。

回答

(事務局)

客船会社から乗客に情報発信はしていない。宮古市の取組みとしては、岸壁に降りてきてタラップの目の前に観光案内所を設置している。キャッシュレス、言語の対応、指差しシートの設置等を事前に商店街等に依頼を行った。平成31年度には、外貨両替を岩手銀行に藤原ふ頭で行ってもらったが、今年度は盛岡市内の両替専門の業者に依頼した。観光以外の部分でも、お金を使っただけのような仕組みを作っていた。乗客は自らネットで調べているので、ピンポイントでここに行きたいと言ってくる方にも、ざっくりとしたプランを持った乗客にも、そのプランを形にできるような受入れ体制を作ることができればと思う。

意見・質疑

(委員)

自分の店の3軒隣に食堂があるが、客船が寄港した際、麺が売り切れ、その際に売り切れたことを韓国語で伝えることができず、その場にいたお客様に通訳をしてもらったという話を聞いた。

購買の仕方について、欧米系のお客様はほぼ100%クレジットカード決済を使う。アジア圏の方は現金の使用が多い。今年については、両替の要請は店側にはなかった。

市内の案内マップを持ちながら歩いている乗客もいて、魚菜市场への行き方を聞かれた。紙のマップを持っていると、どこか探しているのかとこちら側は分かるので紙のマップもあった方がいいと思う。

回答

(事務局)

ラーメン店を探す客船の乗客が多いので、商工会議所のラーメンマップがなくなってしまったが、あれば説明しやすいと思う。

以前は行っていなかった「カラーストリート」について、電柱に「赤の通り」、「青の通り」というように表示をして、紙媒体のマップと対応できるように、前回の経験を踏まえて少しずつ改良している。

マップについては、商店街や商工会議所に関わってもらえれば、さらに使い勝手のいいものになると思うので、ご協力いただきたい。

③「はぐくむ」

意見・質疑

(委員)

創業スクールについて、創業した方の情報があまり出ていないと思うが、企業としては、創業者に協力できることがあると思うので、公表していてもいいのではないか。

また、情報共有として、観光施設では自社商品の売上げが非常に伸びた。

職業体験を行った際に、高校生たちに楽しい経験を宮古でさせたいと考え、来年は2月の真冬のいちご狩り、また、水産高校もいたのであさりとりなど青年会議所でやっていく予定である。

回答

(事務局)

これまでに創業スクールは全8回開催、のべ118名が参加し、うち28名が創業している。最近では、理美容業、飲食、小規模保育所等の創業がある。但し、ご指摘の通り、創業者の情報は、商工会議所の商工みやこに取り上げられることはあるが、市民にはあまり知られておらず、情報が広がらないといった課題はある。

12月23日(土)に陸中ビルのスペースを借用し、「まだ、店舗は取得していないけれども、チャレンジをしたい創業者」等に声掛けをして、創業者同士のネットワークづくりを含めて、イベントを開催予定。それ以外にも他市町村の例では、広報に創業者の特集記事を組む等の事例もあるので、商工会議所と連携しながらPRの仕方を検討していきたいと考える。

情報提供

(委員)

近年、就職活動のスタートがインターンシップということで、本学の学生は1年生の秋頃にインターンシップ先企業に声をかけられて、2年生になる前の3月には会社説明会がスタートする。地域で雇用を確保するためには、早めにインターンシップを実施することも一つの手である。難しいのが、1年以上前に人材を確保するとなると、かなり計画的な人材確保をしなければならない点。

今年、宮古商工と宮古短大の文化祭が、偶然同じ日であった。今後共同で文化祭ができればという話があり、協議を進めている。

意見・質疑

(委員)

明日11月22日(水)に、ハローワーク主催の「しごとメッセinみやこ」が開催される。市内事業者が高校生に向けて会社紹介をするものであるが、市とハローワークとのタイアップは考えていないのか。

回答

(委員)

高校生しごとメッセはハローワークと雇用対策協議会の共催事業である。昨年から、リモートではなく、リアル開催で行っている。今年は、24社が高校1年生、保護者に対して会社や仕事の説明をしてもらおう、という内容となっている。

(事務局)

雇用対策協議会は、宮古・下閉伊地域の市町村、関係団体の組織で、それが主催となり雇用対策の事業を行っている。企業説明会、しごとメッセ、ふるさと就職面談会等、これらの事業が広域の市町村が負担金を出し合いながら取り組んでいる。

意見・質疑

(委員)

就職は入社したら終わりではなく、入社してからがスタート。入社した若者たちが楽しく充実し、成長を実感しながら給与を得て長く働いていくために、各企業だけではできないこともあると思うので、地域全体で取り組んでいくことも大切だと思う。

みやっこベースでは、宮古市と共催で「ルーキーズカレッジ」という新社会人の合同研修を行っている。今年度3回を予定していて、先週2回目を終えた。既卒含め31名が参加し、地域内の同期のつながりも作ってもえるよう参加頂いた。そういったものも含めて、定着支援を地域全体で考えていかなければならないと思う。

回答

(事務局)

ルーキーズカレッジについて、宮古市からも新採用職員が参加させていただいている。宮古市内の新入社員を育てていくという意味では、宮古市が積極的に関わって事業を展開していく必要があると感じている。

情報提供

(委員)

振興局では、ものづくりネットワークで、人材育成のため「ものづくり寺子屋」を行っている。

人口減少対策として、縁結び事業も行っている。沿岸地域の特徴として、一度結婚すると、出産する確率が他の地域より高いという分析結果が出ている。中には男性ばかりの会社、女性ばかりの会社、というのがあるので、今後は、出会う場が必要となってくるのではないかと思う。

④「そなえる」

意見・質疑

(委員)

昨年のBCP（事業継続計画）の研修について、BCPを作成するうえで役立つと思った。参考までに、来年度含め今後のBCP研修スケジュールについて伺いたい。

回答

(事務局)

昨年一度、市と協定を結んでいる東京海上日動火災保険（株）から講師を招き、講習会を開催した。介護事業所で何年か後に策定が必須となることを聞いたので、日程調整等検討し、開催できればと思う。

意見・質疑

(委員)

この施策には関係ないとは思いますが、経済の低迷や、先月の最低賃金の引き上げによって、長く勤めている従業員を抱えきれなくなった事業者が、従業員を雇用ができなくなった人数や、また、そういった働き手を留めておく、再雇用の仕組みがあるのかを知りたい。

い。

回答

(事務局)

廃業した事業者や人員整理を始めた工場もある。だいたい、市内で離職された方が100人くらいと聞いているが、小規模事業所の離職者までは把握できていない。離職者が出る事業所から市に連絡があった場合には、関係団体で制度の説明や、再就職者向け研修などを実施し、再就職についての取組も行っている。但し、離職者人数が多いので、現段階で全ての人が再就職するには至っていない。

宮古市では、今年度10月から「宮古市くらし経済対策本部会議」として、市内の状況を把握し、今後どのような支援が必要かを検討する会議を開催しており、また、市内の事業者を訪問し、状況について確認もしている。そのことも踏まえ、どのような支援が必要かを検討していきたい。

(2) 地域経済の動向について

主な意見及び質疑事項

情報提供

(委員)

市内の商業環境は非常に悪い状況。まず、日中の人出が少ない。今年に関しては異常気象もあり、また、できるだけ消費を最小限にとどめている方が多いのだと思う。商品自体も原価がかなり高騰している。

具体的には、ゴム長靴は石油で作っているが、1年間で50%上がっている。長靴は今や高級品である。150円近い為替なので、来年の商品のメーカー小売価格が決定していない。前もって、1年近く前から注文しなければならないものもあるが、あくまで予定価格という形の注文になっている。そのため、原価1万円の商品を注文したはずなのに、実際は1万3千円になって入荷したという事例もあり、前もっての発注は怖くてできない。ただ、前もって発注品しなければ商品が入ってこない。これが、商品を仕入れ、販売する小売業の現状である。

情報提供

(委員)

今年、藤井聡太棋士に紫蘇ジュース「かわいペリーラ」を飲んでいただき、経済効果があった。その半面、シソに関して、8月から2か月の収穫時期において、5、6年前は最高45名ほどの生産者がいたところ、今年は20名と、半分以上に減少していた。川井地域に限らず、農林水産業全体の課題であると思う。これに加えて、資材、シソに撒く肥料関係も値段が上がって、農業の所得の減少となる。人数も減少し、所得の減少となり、担い手不足が懸念材料となる。

そういった部分で、担い手、シソの原料がなければ会社としても宮古市としての特産品の販売に繋がらないと思うので、担い手、資材や肥料の高騰に対する支援が必要になると考える。

意見・質疑

(委員)

生産者の減少は高齢化に伴うリタイアのみか、廃業によるものも含むのか。

回答

(委員)

高齢の生産者が多いので、後継者不足が1番の要因であると考えます。また、シソ販売の収入のみでは生活が厳しい。昨年より手取りも少なくなっているため、来年度はさらに生産者が減少するのではないかと懸念しています。

情報提供

(委員)

製造業分野の輸出系事業者では、市民や県民は販売対象ではなく、主に中国が一番大きいマーケットであるので、中国の工場、メーカー向け（中国のみではないが）に商品を作っている業界。最近では、中国の経済悪化が報道されるようになった。自分も現地を見ているわけではないが、2、3年ほど前からその状況は始まっている。実際に、中国が物を買わないという消費動向に変わってきたのが、1、2年前だと思う。

通常時と比較して、受注状況は1年以上前から5～7割の状況が続いている。ここから先も明るい兆しは見えない。中国の国民が物を買わなくなっているということなので、それが原因だとすれば、買うようにならないとすれば、あるいは、中国ではなく、インドや東南アジアのマーケットに進出するということがなければ、回復はしない。

中国には、物流在庫が非常に多くある。日本や欧米のメーカーの流通量は計画的に動いているのだが、特に中国の生産の仕方というのは、例えば、3千万個必要であれば、注文は3千万個で出す。日本であれば、3千万個を10か月で生産すると言え、月に1/10の数で発注を出す。中国であれば、3千万個必要であれば3千万個注文を出す。3千万個の注文に1社で応えられるメーカーは無いと、色々な製造先に声をかけるため注文が重複し、必要以上に在庫が置かれることとなる。但し、近年この状況にも動きが出てきたとはいえ、根本的なことを解決しないと、改善しないと思う。

東南アジアのマーケットについては、日本からの参入の効果はいまいちである。インドについても、サプライチェーンができるまで3～5年かかると思うので、本格的に動くのはなかなか難しいと思う。

元受けと下請けについて、グローバル化された企業を元受けとすると、基本的には日本で稼いでない。日本から部品を仕入れ、消費税を払い、製造と販売は海外で行い、消費税はなし。結果、100%かは分からないが、消費税が還付されることになる。つまり、グローバルで稼いでいる企業は消費税を払っていない。そのため、税収は過去最高を記録し、東京圏だけバブルになっているというのが実情である。

給料を上げるとなると、どこかを削ることとなる。または、給料を上げる前に、下請けへの発注金額を上げてもらわなければ、中小企業の発注額は上がらない。よく、HPを見ると、給料を上げたと掲載している企業があるが、発注先への発注金額はどうなのかというところが、産業界としては大きい。

深刻な状態ではあるが、具体的ないい手だてはない。早期退職という人員整理も、かなり行っていると思うが、自身の会社も雇用調整助成金をもらっている状況にある。今後本格的に手を入れていかないと、日本の産業の空洞化といわれるが、製造業はかなり厳しいのではないかとと思われる。

今、製造業の中で致命的に上がっているのは、電気代。1.5倍以上上がっている。その中で、宮古市のエネルギー物価高騰支援給付金は非常にありがたかった。

情報提供

(委員)

介護保険業界は赤字であるが、地域から求められている事業も多くあるため、すべてをやめるのではなく、デイサービスを1日休業して、また、地域のニーズを把握しながら、事業を進めている。

コロナが収束し、福祉事業所の方々がイベントに出られる機会が増えていったので、イベントの物販という部分では、上向きになってきたという明るい話も聞く。宮古市との共催で11月19日（日）にみやこわくわくまつりを開催し、500人ほどの参加者があった。事業所でコーヒーや物販販売を行い、ほぼ完売。イベントが開催できるようになったという部分では、働く意欲が上がるなど、明るい兆しも少し出てきていると思うが、電気代の高騰など厳しい部分もある。

(3) その他

主な意見及び質疑事項

情報提供

(事務局)

イベント関係のチラシを添付させていただいた。鮭はなかなか水揚げされていない状況ではあるが、11月26日(日)に「鮭・あわびまつり」が田老野球場にて開催される。あわびは田老漁協で口開けがあったようなので、あわび取体験は実施できるようだ。

12月3日(日)には、魚市場の特設会場で、「宮古鮭まつり」が開催される。様々なところから、鮭を手配して、鮭、いくら、鮭加工品などの販売を行う。ぜひ、足を運んでいただければと思う。

情報提供

(事務局)

各委員から情報提供をいただいたが、厳しい経済状況の中、様々な支援策を考えようということで、宮古市くらし経済対策本部会議を設置した。現在、各分野の職員が市内企業を訪問・調査し、現状把握に努めている。職員が伺った際には、状況等お話しいただければ幸いである。

また、電気代高騰の話も聞こえているが、市だけではなかなか気付くことが難しい、市内事業者で必要とされる支援の情報について、教えていただければと思う。

午前11時50分、閉会した。